

平成 25 年度第 4 回常務理事会議事録

日 時： 平成 25 年 11 月 8 日（金） 15：00～17：35

会 場： ステーションコンファランス東京 402BCD

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岩下 光利、平松 祐司

常務理事：青木 大輔、苛原 稔、加藤 聖子、木村 正、藤井 知行、峯岸 敬、八重樫 伸生、
吉川 裕之

監 事：落合 和徳、嘉村 敏治、吉村 泰典

特任理事：海野 信也、齋藤 滋、種部 恭子、南 佐和子

理事会内委員会委員長：工藤 美樹、久保田 俊郎、竹下 俊行、竹田 省、水沼 英樹、
水上 尚典

幹事長：澤 倫太郎

副幹事長：阪埜 浩司

幹 事：上田 豊、加藤 育民、岸 裕司、北澤 正文、桑原 章、榊原 秀也、
佐藤 豊実、下平 和久、関根 正幸、高倉 聡、多賀谷 光、永瀬 智、西 洋孝、
西ヶ谷 順子、増山 寿、松村 謙臣、矢幡 秀昭、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事の総数 12 名のうち 11 名（吉川史隆理事は欠席）が出席し、定足数に達しているため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、監事の計 4 名を選任し、これを承認した。

I. 平成 25 年度第 3 回常務理事会議事録（案）の確認 原案通り、承認した。

II. 業務担当常務理事報告

1) 総 務（岩下光利副理事長）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

- ①岸野貢功労会員(神奈川)が 8 月 1 日にご逝去された。(神奈川地方学会から 10 月 7 日報告受領)
- ②肥田木孜功労会員(大分)が 10 月 16 日にご逝去された。(大分地方学会から 11 月 5 日報告受領)

(2)平成 25 年度上半期入会年度別・卒業年度別新入会員数について [資料：総務 1]

海野信也特任理事「昨年度の 9 月 30 日現在と比較すると 11 名減っており、かなり深刻に考えるべきである。2011 年度卒業者の入会者数は前年、前々年に比べて 30 名程度少なくなると予想される。」

(3) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①10月15日に第1回MRガイド下集束超音波治療器の検討小委員会を開催した。第2回の検討小委員会は12月5日に開催予定である。[資料：総務2]

久保田俊郎委員長「保険収載直前となった過程が分からないとの意見があり、次回の委員会では厚生労働省の保険担当者にヒアリングを行う予定である。」

②本邦におけるEP合剤による血栓症の頻度の調査および血栓症リスクに対する安全策についての検討小委員会について

8月31日の第2回理事会で、本邦におけるEP合剤による血栓症の頻度の調査および血栓症リスクに対する安全策について、生殖内分泌委員会に検討小委員会を設置して検討することになった。ところが厚生労働科学研究事業（小林隆夫先生）でほぼ同様の全国調査が現在行われていることが判明したため、同事業の結果を待ちそのデータを利用して特に安全対策について、生殖・内分泌委員会小委員会で検討することになった。データは今年度中に集まるといことなので、来年度から小林隆夫先生にも委員に入ってもらい、榎原久司先生を委員長とした生殖・内分泌小委員会で議論を始めることとなった。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

③女性ホルモン剤使用中患者の血栓症に対する注意喚起について[資料：総務3]
注意喚起の掲載につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①子宮頸がんワクチンについて、今後本会が取るべき対応について [資料：総務4]

小西郁生理事長「厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会で12月にも何らかの結論が出るのではないかとされている。産婦人科からも参加を求められる可能性はあるが、その際に本会として特に再開後の体制について何を言っていくか考えておく必要がある。」

加藤聖子理事「厚生労働省研究班が推進している痛みセンター連絡協議会の所属医療機関にはHPVワクチンの副反応のある患者が来ているようなので、産婦人科もそれらのペインクリニックの先生方と連絡を取って、患者についての情報収集と調査分析を行ってはどうか。」

吉川裕之理事「情報の開示が重要である。現在公表されているものにも因果関係がはっきりしない症例が含まれているが、そのことが分かりにくい。一例一例丁寧に見ていくと、問題となる症例は少ない。情報の開示が不十分なために誤解が生じている側面があり、本会としてもそれをきちんと行っていくべき時期ではないか。」

小西郁生理事長「実態がはっきりしない面はあり、情報開示や早めの医療対応を行えるようにすることを本会としても行っていきたい。」

②東京弁護士会の望月宣武弁護士から、遺伝性乳癌卵巣癌の遺伝カウンセリングなどについての日本乳癌学会のガイドラインに対する本会の見解を求めてきた。[資料：総務4-1]

(ハ) 周産期委員会

①日本医療機能評価機構の産科医療補償制度原因分析委員会部会員について、本会より、

下屋浩一郎先生（川崎医科大学）、田中宏和先生（香川大学）、田嶋敦先生（順天堂大学浦安病院）、吉松淳先生（国立循環器病研究センター）、吉田敦先生（長崎大学）、喜多伸幸先生（滋賀医科大学）、亀谷英輝先生（大阪医科大学）、遠藤俊明先生（札幌医科大学）、鈴森伸宏先生（名古屋市立大学）、三好博史先生（広島大学）、西田欣広先生（大分大学）、塩崎有宏先生（富山大学）、吉里俊幸先生（福岡大学）、山下隆博先生（東京大学）、菊池昭彦先生（岩手医科大学）、村越毅先生（聖隷浜松病院）、松浦眞彦先生（日本大学）の17名を推薦した。あと1名の推薦を行う予定である。

②B型肝炎母子感染予防方法の変更について、会員へのお知らせとして、ホームページに掲載し周知を図りたい。また、日本小児科学会に対してワクチン接種実施の協力依頼を行いたい。本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

③厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業 血液凝固異常症に関する調査研究班作成の妊娠合併 ITP 診療の参照ガイド案について、周産期委員会および会員から3件の意見があり、浜松医療センターの小林隆夫先生を通して先生方の意見を提出した。[資料：総務6]

④東京慈恵会医科大学と共同研究を行っていた「産科医療の質と向上へのヒント—産婦人科診療ガイドライン実施率の観点から」結果報告書に対する意見募集を本会ホームページに掲載したが、特に意見はなかった。

(二) 女性ヘルスケア委員会

① ホルモン補充療法ガイドライン2012頒布状況について

10月29日現在、入金済7,286冊、校費支払のため後払希望13冊。

② 11月6日に第1回女性アスリートのヘルスケア小委員会を開催した。

③ 6月に本会から意見を提出したプレフェミンに関して、ゼリア新薬工業から提出されたチェックリスト案および効能の記述について、厚生労働省医薬食品局審査管理課より意見を求めてきた。「特に意見なし」で回答したい。[資料：総務7]

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

④女性のヘルスケアアドバイザー養成プログラムに関する小委員会を設置したい。[資料：総務7-1]
種部恭子特任理事「女性のトータルヘルスケアを管理できる医師を養成し、その啓発技術や診察技術認定したい。認定後は、地域で女性のトータルヘルスケアをプロモーションしていただくことを目指していきたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4)事務局の移転について [資料：総務8、8-1、8-2]

岩下光利副理事長「八重洲のビルは現在本会に優先交渉権があるが、定期借家契約であるため、契約

の継続性が保証できない難点がある。それを踏まえてこの契約を進めてよいか、お諮りしたい。」

小西郁生理事長「現在は常務理事会を外部でしか開催できない状況なので、移転は必要であろう。八重洲の物件は条件はそろっているが、定期借家契約の問題がネックになっている。」

平松祐司副理事長「このビルは下の階に貸会議室があり、併せて理事会も開ける可能性がある。」

桜田佳久事務局長「オリンピック開催も決まり、貸主の動きを考えると6年後には立ち退きを迫られる可能性が高い。その場合、再度移転費用がかかるし、賃貸相場は今よりも厳しくなっている可能性がある。」

藤井知行理事「6年後に好条件の物件を見つけるのは難しいかも知れない。それを考えると京橋のビルが良いとなるが、この2件以外に物件はないのか。」

桜田佳久事務局長「東京駅徒歩圏内の物件で使い勝手のよいものとなるとこの2件となった。」

嘉村敏治監事「事務局機能強化が十分に図れるのであれば、6年で移転となってもよいのではないか。」

落合和徳監事「現事務所8年となるが、長く居たという印象はない。移転が視野に入っていると本会の活動にも不便が生じることがあるのではないか。」

小西郁生理事長「6年後の移転可能性がある物件を今決めるとするのは難しいように思う。」

八重洲の物件は見送り、さらに検討を続けることにつき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 日本産科婦人科学会団体保険制度について、会員の利便性を考慮し、本会ホームページにバナーを付けて保険代理店に資料請求や問合せができるようにしたい。 [資料：総務9]

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

① 同省医薬食品局血液対策課より、献血血液の研究開発等での使用に関する指針に基づく公募の実施についての通知を受領した。 [資料：総務10]

② 同省雇用均等・児童家庭局および医政局より、平成25年度乳幼児突然死症候群対策強化月間(11月1日～30日)の実施についての周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して会員に周知したい。 [資料：総務10-1]

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

③ 同省医政局医事課より、医道審議会医師分科会医師臨床研修部会報告書案についてのパブリックコメントを募集する旨の案内があった。11月18日が締め切りである。 [資料：総務10-2]

小西郁生理事長「報告案の大枠は決まっているようだが、本会としては、若い女性のヘルスケアは危機的状況にあるので2年間の研修期間に産婦人科の時間を取って子宮内膜症や子宮筋腫などの研修プログラムを必修にして欲しいということを再度提案したい。また産科小児科プログラムの継続については引き続きお願いしたい、というコメントを提出したい。」

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会

①日本医学会を通して厚生労働省医政局より、高血圧症治療薬の臨床研究事案を踏まえた対応及び再発防止策についての中間とりまとめの周知依頼を受領した。機関誌に掲載して会員へ周知したい。〔資料：総務 11〕

②同会では、「わが国の不正な臨床研究報告に関する日本医学会の見解」をとりまとめ、同会ホームページに掲載した。〔資料：総務 11-1〕

(2) 精神科七者懇談会

精神科七者懇談会より、心理職の国家資格化に関する提言を受領した。〔資料：総務 12〕

(3) 日本助産学会

①産婦人科診療ガイドライン産科編 2011 について、同学会ホームページに本会ホームページからのリンクを付けることの依頼があり、以下の条件付きで了承したい。

1. 来年 2014 年版が発刊されることを了解いただく
2. 2014 年版が学会ホームページに掲載された場合には速やかにそれに差し替えていただく

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

②同会ではホームページに「助産に役立つガイドライン」というコーナーを設置し、同会会員に有益な情報である各種ガイドラインを掲載することにしたが、日本産婦人科医会の HP で掲載されている「早期母子接触」実施の留意点（2012 年 10 月 17 日版）について、リンクを設置するにあたり、このガイドライン策定に関わった本会の了承を求めてきた。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 予防接種推進専門協議会

本会は先月、同協議会からの依頼により開発優先度の高いワクチンをリストアップして提出したが、それについての同協議会での検討結果報告があった。〔資料：総務 12-1〕

〔Ⅳ. その他〕

(1) 関西労災病院より、第 14 回関西労災病院市民公開講座（2013 年 12 月 1 日、伊丹市立中央公民館）の後援名義使用依頼があった。経済的負担はなく、これを応諾した。

(2) 第 46 回国際妊娠病態生理学会・第 35 回日本妊娠高血圧学会（2014 年 9 月 18～20 日、京王プラザホテル）の後援名義使用依頼があった。経済的負担はなく、これを応諾したい。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3)平成 26 年度「乳の学術連合」学術研究公募の案内を受領した。

(4)東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク研究センターより、CDISC 標準入門セミナー（2014 年 1 月 23 日、東京大学医学部 2 号館 3 階講堂）の開催案内を受領した。

(5)一般社団法人日本マタニティフィットネス協会より、マタニティ&ベビーフェスタ 2014（2014 年 4 月 5・6 日、パシフィコ横浜）の後援名義使用依頼があった。経済的負担はなく、これを応諾したい。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6)財団法人日中医学協会より、同協会が行う日中の医学学術交流に関する助成事業の助成金応募周知に関する協力依頼を受領した。昨年同様、ホームページに掲載して会員へ周知したい。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7)公益財団法人日本ダウン症協会は、厚生労働省母子保健課宛に新しい手法の出生前診断についての質問状を提出したことを本会に通知してきた。[資料：総務 13]

(8)MSD 株式会社より、第 2 回シンポジウム「命の選択 がん予防を考える」（2013 年 11 月 20 日、ホテルオークラ東京）の後援名義使用依頼があった。経済的負担はなく、これを応諾したい。

さらに小西郁生理事長に対してこのシンポジウムの諮問委員就任依頼があったが、これについては謝絶したい。[資料：総務 14]

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

2) 会 計（吉川史隆理事） 特になし

3) 学 術（峯岸敬理事）

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催

第 3 回学術委員会、第 3 回学術担当理事会を 12 月 6 日に開催する予定である。

(ロ) 平成 25 年度学術奨励賞候補者の推薦及び応募状況（10 月 31 日締切）

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第 66 回学術講演会プログラム委員会

(ロ) 第 67 回学術講演会プログラム委員会

(ハ) 第 68 回学術講演会プログラム委員会

4) 編 集（藤井知行理事）

(1) 会議開催

開催日	会議名	場所
11月8日	和文誌編集会議/JOGR 編集会議	学会事務局会議室
12月6日	編集担当理事会	フクラシア東京ステーション

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況 : 2013 年投稿分 (10 月 25 日現在)

Accept	144 編
Reject	508 編
Withdrawn/Unsubmitted	168 編
Under Revision	43 編
Under Review	143 編
Pending	0 編
Expired	0 編
投稿数	1,006 編

(3) 日本産科婦人科学会雑誌 66 巻 5 号特集について

< 卵巣の aging と妊孕能 >	取りまとめ : 千石一雄	
1) 加齢と卵巣機能	森田峰人	東邦大学
2) 卵子の老化メカニズム	高橋俊文	山形大学
3) 卵巣機能低下症例に対する ART 治療戦略	福田愛作	IVF 大阪
4) 老化卵子のレスキュー	田中温	セントマザー

(4) JOGR AE の応募状況

藤井知行理事 「最終的に 14 名の応募があり、応募者全員に AE をお願いすることとした。」

(5) 第 23 回 AOCOG (バンコク、タイ) に、藤井知行編集担当常務理事が Executive Board Member として出席し、Council meeting、General Assembly において JOGR report を発表した。

(6) AOCOG2015 (クチン、マレーシア) の一般演題抄録集を JOGR supplement として学会後に出版する件につき、10 月 21 日バンコクでマレーシアの Organizing Committee Member と藤井編集担当常務理事が話し合い、本会の編集会議、常務理事会で承認されることを条件に、抄録集を JOGR が online publication すること (印刷物不要)、学会場で配布するプログラムや CD abstract はマレーシア側が作成することで合意した。このため予算は前回常務理事会報告より少なくなり、1,050,000 円となった。この件につき、11 月 8 日の編集会議で報告し了承を得た。

藤井知行理事 「一般演題の抄録集を出してくればよい、ということで費用は 800,000 円となった。また専門委員会の英文原稿を JOGR に掲載するが、これをホームページで周知していただきたい。」

5) 渉外 (木村正理事)

(1) 会議開催

12 月 6 日に第 2 回渉外会議を開催の予定である。

[FIGO 関係]

- (1) 第9回環太平洋不妊会議（2013年11月13～14日、於：神戸）開催にあたり、FIGO 2021 招致活動の一環としてFIGO Past President Prof. Gamal Serour、およびChief Executive Prof. Hamid Rushwan を招待することになった。
- (2) FIGO Committee for Gynaecologic Oncology Consensus Statement on Hereditary Cancers の draft について FIGO より承認を求められ、婦人科腫瘍委員会とその小委員会である遺伝性乳癌卵巣癌 (HBOC) の啓発および取扱い検討小委員会による検討結果をFIGOへ回答した。
- (3) コロンビアとボリビアのFIGO理事が参加する日本の医療事情視察ツアー（日程：11月25日～12月2日）について、大阪市立総合医療センター、大阪府立母子保健総合医療センター、大平産婦人科、および大阪労災病院を視察の予定である。

[ACOG 関係]

- (1) 第66回日本産科婦人科学会学術講演会におけるExchange Programについて、ACOGよりPresident Dr. Jeanne A. Conry、Immediate Past President Dr. James T. Breeden、Executive Vice President and CEO Dr. Hal C. Lawrence、および若手医師6名が参加の予定である。
- (2) 62nd ACOG Annual Clinical Meeting (2014年4月26～30日、於：シカゴ)におけるExchange Programについて、本会より小西郁生理事長、峯岸敬第67回学術集会長、木村正渉外担当常務理事、阪埜浩司副幹事長、西洋孝幹事、および若手医師6名を派遣の予定である。

[AFOG 関係]

- (1) AOCOG 2013 (10月20～23日、於：バンコク) Opening Ceremonyにて、武谷雄二名誉会員がAFOG Fellowとして表彰された。

- (2) AFOG Council meeting、およびGeneral assembly 報告 [資料：渉外1]

木村正理事「AFOGにはYoung Gynecologist Awardを重視し、Committee memberからCommittee chair、Executive Boardと続くキャリアの流れがあるようで、本会も少しそれを意識して若くて海外交流に興味のある先生方に関わっていただくように考えた方がよいとの印象があった。」

藤井知行理事「AFOGはSumpaico先生がリードしており、キャリアフローについても明言している。特に学問的な面では日本はもっと積極的に発信していくべきである。」

岩下光利副理事長「Young Gynecologist Awardなどにもっと応募するように学術から案内してもらうようにしてはどうか。」

木村正理事「それに加えて、たとえば医会の先生で海外活動に興味がある先生がいるようであれば、

その方とタイアップするのもひとつの方法である。」

工藤美樹委員長「若い人はなかなかアジアに目を向けてくれないが、日本としてはまずアジアでの地歩を固める必要がある。例えば若い人が KSOG の学術集会以外の学術ミーティングに参加することは少ないようで、今後は交流の裾野を広げていく必要があると思う。」

藤井知行理事「韓国、台湾の学問的レベルは高いが、AFOG で発言が多いのはインドであり、インドなど南アジアの国々との交流も考えてはどうか。」

木村正理事「本会から支援した結果、カンボジアから IS に応募があるなど、小さくて現在困難な局面にある国をサポートするのもよい方法かと思う。」

落合和徳監事「海外活動の窓口は本会となるわけで、活動を希望すると先生が情報を得られるようなサイトがあってもよいと思う。どうしてもボランティア的要素が多いので、各大学の産婦人科教室が若い人をサポートして育てる姿勢が必要となる。加えて AFOG は Royal College との関係が強いので、本会としてもそれを意識して活動する必要がある。」

木村正理事「AFOG の広報委員会委員に加藤聖子先生を推薦したいがよいか。」

AFOG 広報委員会委員の推薦につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

[TAOG 関係]

(1) 53rd Annual Congress of TAOG (2014 年 3 月 8~9 日、於：台北)における Exchange Program について、本会より岩下光利副理事長、木村正渉外担当常務理事、八重樫伸生教育担当常務理事、桑原章幹事、および若手医師 5 名を派遣の予定である。

6) 社 保 (青木大輔理事)

(1) 会議開催

1 月 17 日、常務理事会後に第 4 回社保委員会を開催予定である。

(2) 2011 年に「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の第 2 回開発要望募集」に関して本会より厚生労働省に提出した要望のうち以下の 2 要望について、公知申請を行っても差し支えないとの結論が得られたとの通知を厚生労働省より受領した。 [資料：社保 1]

- ・組換え沈降 B 型肝炎ワクチン (酵母由来)
- ・乾燥抗 HBs 人免疫グロブリン、抗 HBs 人免疫グロブリン

(3) 日本泌尿器学会と日本排尿機能学会が日本医師会に提出した要望書「『尿失禁を伴う過活動膀胱の症状改善を目的とした磁気刺激装置による骨盤底領域の神経刺激法』の処置料の早期保険適用のお願い」について [資料：社保 2]

落合和徳監事「この要望書について本会も内容を確認する必要がある、また施設基準に泌尿器学会専門医の常駐を求めていることについても検討が必要ではないかと考えている。」

小西郁生理事長「女性ヘルスケア委員会で検討していただくことにしたい。」

7) 専門医制度 (吉川裕之理事)

- (1) 日本専門医制評価・認定機構から、専門医等情報データベース等作成事業についての協力依頼を受けた。機構では学会横断的なデータベースを作成して新たにできる日本専門医機構(仮称)に引き継ぐ予定にしている。本会専門医の氏名、勤務先、専門医取得・更新年月等のデータを11月末までに機構に提出することを求めている。 [資料: 専門医 1]

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

吉川裕之理事「日本専門医機構設立に向けた組織委員会の総合診療専門医に関する委員会では、プライマリ連合学会が主導しているが、日本内科学会や日本医師会などでも少しずつ意見が違っている。家庭医としての総合診療医と、家庭医を教育する病院における総合診療医として整理されていくようである。ただ分娩の取扱いなど産婦人科に関わるところはまだ議論されていない。」

水沼英樹委員長「総合診療専門医については、従来の考え方と変わって女性を見るという視点が必要であり、産婦人科としてのコミットをお願いしたい。」

吉川裕之理事「専門医制度の当面の課題は、暫定指導医の2年後導入を目指して講習会をどうするか、大学以外の施設別研修モデルの作成、専門医更新ルールの整理、認定シールのカード化などである。」

木村正理事「指導医講習会はブロックで対応するということだが、その内容については決まり次第、周知をお願いしたい。」

吉川裕之理事「今年度中には固めたい。ブロックをお願いすることもあり、暫定指導医から正式指導医になるのに2年間ということにさせていただいた。」

8) 倫理委員会 (苛原稔委員長)

- (1) 本会の見解に基づく諸登録(平成25年10月31日)

- ① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録: 47 研究
- ② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録: 581 施設
- ③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録: 580 施設
- ④ 顕微授精に関する登録: 524 施設
- ⑤ 非配偶者間人工授精に関する登録: 15 施設

- (2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

10月28日現在申請350例 [承認300例、非承認4例、審査対象外23例、取り下げ2例、照会13例、審査中8例] (承認300例のうち8例は条件付)

- (3) 9月13日付にて発出された日本生殖医学会の「未受精卵および卵巣組織の凍結・保存に関するガイドライン」に対する本会の意見について [資料: 倫理 1]

苛原稔委員長「医学的適応については、推進を妥当とする会告を作成し、4月の臨時総会で承認いただくことで進めたい。社会的適応については、医療とは考えにくいが本会としての一定の方向性を示したい。生殖・内分泌委員会 ART リスクマネージメント小委員会で指針を作成することにしたい。」

藤井知行理事「ART リスクマネージメント小委員会には周産期委員会の先生にも参加していただくとういのではないかと。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

- (4) 会議開催

- ① 11月5日に「平成25年度第4回着床前診断に関する審査小委員会」を開催した。
- ② 11月19日に「平成25年度第4回倫理委員会」を開催する予定である。

- (5) 母体血を用いた出生前遺伝学的検査に関する臨床研究施設認可状況—10月15日現在計31施設

平成 25 年 10 月 10 日付 広島大学病院
 平成 25 年 10 月 15 日付 千葉大学医学部附属病院

9) 教育 (八重樫伸生理事)

(1) 会議開催

開催日	会議名	場所
11 月 2 日	第 2 回専門医認定筆記試験作成委員会(腫瘍分野)	大阪・ロイヤルホテル
11 月 8 日	第 2 回専門医認定筆記試験作成委員会(生殖分野・周産期分野・女性医学分野)	フクラシア東京ステーション
11 月 8 日	第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会時 International Workshop for Junior Fellows 第 1 回打合せ	フクラシア東京ステーション
11 月 29 日	第 3 回専門医認定筆記試験作成委員会 (周産期分野・腫瘍分野)	フクラシア品川
12 月 6 日	第 3 回教育委員会・若手育成委員会合同委員会	フクラシア東京ステーション
12 月 6 日	第 3 回専門医認定筆記試験作成委員会 (生殖分野・女性医学分野)	フクラシア東京ステーション

(2) 書籍頒布状況

電子版(iOS 版並びに Android 版タブレット端末専用) : 10 月 25 日現在

必修知識 2013 単体	142
用語集単体	29
必修知識 2013+用語集	124
合計	295

書籍版 : 10 月 30 日現在

	入金済み (冊)	校費等後払い(冊)
産婦人科研修の必修知識 2013	1,354	24
用語集・用語解説集改訂第 3 版	1,998	19
若手のための産婦人科プラクティス	2,205	8

(3) 電子版書籍に関して

①Apple の価格設定変更に関連して

用語集単体 : 5,200 円、必修知識 2013 単体 : 8,200 円、用語集+必修知識セット:10,500 円で販売をしてきた (電子書籍開始時の Apple の価格設定にあわせたもの) が、10 月 17 日付価格変更 Titer52 : 旧 5,200 円→新 5,800 円、Titer59 : 旧 8,200 円→新 9,400 円、Titer62 : 旧 10,500 円→新 11,800 円の連絡があり、Apple 本社の 17 日 0 時付で自動的に価格が変更になってしまった。

このため一時的に販売を中止し、対応を検討した。

Titer を同じランクにすると購入者の負担が増すため、近似値：10,500円→10,800円、8,200円→8,400円、5,200円→5,400円に変更した。また教育委員会としては、Android版(Google)については現行の価格のままに設定しようとしたが、他社でAppleの販売価格よりも低い値段をつけた場合、Appleから販売に関して認可が下りないことが判明したので、Android版についても同額の設定を行った。

②①の状況を受け、KaLibの日本産科婦人科学会書籍の頁に「Apple社の申し出で値段設定が変更になりました。また、今後も為替変動により自動的に金額が変わる可能性があります。」の一文を追加した。

③①の状況を踏まえ、学会内書籍発刊部署(教育委員会・ガイドライン委員会・ガイドライン調整役)ならびに日本産婦人科医会を含めて、電子書籍に関する検討委員会を開催する予定である。

(4)西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部奨学金について

10月15日付で小西郁生理事長名で西日本の大学(医)学部長・産婦人科教授・大学学生課)に奨学生募集のポスターならびに案内を送付した(応募締切12月18日)。

(5)用語集・用語解説集について

①意見募集[資料:教育1]

本年、産科婦人科用語集・用語解説集を発刊したが、その内容に対し平成26年1月末を締切として会員からの意見を受け付ける予定である。

②協力委員募集

10月4日に専門委員会委員長も含め用語集・用語解説集編集委員会を開催し、関連4学会(日本周産期・新生児医学会、日本生殖医学会、日本婦人科腫瘍学会、日本女性医学学会)に対し協力いただける委員(3~5名)のご推薦をお願いすることになった。任期は2017年産婦人科用語集・用語解説集発刊までの予定である。

(6)産婦人科研修の必修知識について:各大学への協力依頼[資料:教育2]

2015年発刊の産婦人科研修の必修知識については、項目建てを変更する予定であるが、従来、2007版をもとに改訂してきたため内容に関して不足点・見直しが必要な点・加筆が必要な点などが散見された。本日、資料としてお示ししているような内容で各大学に必修知識の見直しのご協力をお願いしたい。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7)産婦人科研修の必修知識練習問題:解説付き 2014年版(仮称)について

教育委員会より依頼をして立候補いただいた第7回産婦人科サマースクール若手委員(大阪大学・中川 慧先生、東京大学・宮本雄一郎先生、弘前大学・湯澤 映先生)を中心として20大学にご推薦をお願いし回答のあった下記の先生方に産婦人科研修の必修知識練習問題:解説付き2014年版(仮称)の解説文執筆ならびに確認をお願いする予定である。

大学	被推薦者
福岡大学	佐藤 安南
福岡大学	今城 有芸
自治医科大学	齋藤こよみ
大阪医科大学	小野 賀大

東北大学	渋谷 裕介
日本医科大学	中西 一步
昭和大学	仲村 将光
埼玉医科大学	佐藤 加寿子
名古屋大学	諸井 博明
横浜市立大学	粒来 拓
横浜市立大学	時長 亜弥
慶應義塾大学	野上 佑哉
東京大学	佐山 晴亮
大阪大学	河野 まひる
九州大学	南 千尋
東京慈恵会医科大学	田沼 有希子
新潟大学	山脇 芳

(8) 第 66 回学術講演会時医学生向けプログラムチューターについて

標記の件につき、第 3 回から第 5 回の若手医師企画委員に対し参加の可否を確認したところ、16 名の立候補があった。ただし講演等との兼ね合いもあるので全員に依頼をするかについては未定である。

	氏名	所属機関
第 3 回	高江正道	聖マリアンナ医科大学
	福井章正	久留米大学
	山口宗影	熊本大学
	大江収子	藤田保健衛生大学
第 4 回	川崎 薫	京都大学
	永沢 崇幸	岩手医科大学
	市川 剛	日本大学
	井上 真紀	群馬大学
第 5 回	甲斐健太郎	大分大学
	志鎌あゆみ	筑波大学
	小島 崇史	北海道大学
	倉員 正光	福岡大学
	杉並 興	京都大学
	宮本 雄一郎	東京大学
	上出 泰山	東京慈恵会医科大学

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

10) 地方連絡委員会 (平松祐司副理事長) 特になし

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (加藤聖子委員長)

(1) 会議開催

11月7日に第2回広報委員会を開催した。

加藤聖子委員長「広報委員会では、本会ホームページを改定して見やすくすること、ニュースレターが読まれていないので各大学にアンケートを行うこと、e 医学会の導入によりホームページ画面が変わること、バナー広告の推進などが協議された。」

藤井知行理事「JOGRに入る時に不便になることはないのか。」

加藤聖子委員長「そこは問題ない。ただホームページのe 医学会のページにはバナー広告、企業セミナー、製品情報の項目があり、その選択はe 医学会側が行う。本会がそれを変更させることはできるが、一旦は掲載されることは議論となる可能性がある。」

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報1]

(3) ホームページについて

①アクセス状況について [資料：広報2]

②会員専用ページに掲載中のMSDバナーについて、2013年11月より1年間の掲載継続が決定した。

(4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料：広報3]

嘉村敏治監事「ログイン人数が少ないように思う。ログインを増やす工夫を考えてほしい。」

加藤聖子委員長「検討したい。」

(5) Anetis2013 秋号について [資料：広報無番]

2) 未来ビジョン委員会 (平松祐司委員長)

(1) 会議開催について

①10月23日に第1回新しいプロモーションサイトに関するWG会議を開催した。

②11月5日に第2回新しいプロモーションサイトに関するWG会議を開催した。

③11月8日に第4回未来ビジョン委員会を開催した。 [資料：未来ビジョン1、1-1]

(2) 第1回全国医局長会議について [資料：未来ビジョン2]

(3) 女性の健康手帳について [資料：未来ビジョン3]

平松祐司委員長「女性の健康手帳は今年度内に発行したいと考えている。冊子体の出版社やネーミングなどを検討している。」

(4) 新しいプロモーションサイトについて [資料：未来ビジョン4]

平松祐司委員長「新サイトは来年4月スタートを目指し、テーマは「性教育、産婦人科について、医療の現場」、サイト名はLove & Life Stationを中心に検討している。方向性を未来ビジョン委員会で決め、具体的な企画は東京在住の先生方で組成したワーキンググループで進めている。」

3) 震災対策・復興委員会 (岩下光利委員長)

(1) 福島への医師派遣スケジュールについて [資料：震災対策1]

(2) 派遣医師への感謝状について

岩下光利委員長「派遣された先生方には、専門医シールを発行するとともに本会からの感謝状を出すこととしたい。4月臨時総会で代表者に渡すこととしたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

4) 診療ガイドライン運営委員会 (岩下光利学会側調整役)

(1)産科編委員会 (水上尚典委員長)

- ① 「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011」頒布状況について
10月29日現在、入金済15,692冊、後払希望29冊。

(2)産科編評価委員会 (海野信也委員長)

(3)婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

- ① 「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について
10月29日現在、入金済11,843冊、後払希望27冊。

(4) 婦人科外来編評価委員会 (峯岸 敬委員長)

岩下光利学会側調整役「産科編 2014年版は来年4月に発刊予定で、指導者講習会を6月1日に開催する。婦人科外来編 2014年版は来年3月発刊予定で、指導者講習会を6月8日に開催することを検討している。また電子版の発行についても検討している。」

5) コンプライアンス委員会 (工藤美樹委員長)

(1)11月8日に、提出された役員等の利益相反申告書の確認を行った。

2013年分利益相反自己申告書は該当者246名、提出243名、未提出3名であり、未提出の先生には8月7日と9月30日に催促通知を送っている。

工藤美樹委員長「提出された役員等の利益相反申告書の内容は適正なものであった。」

6) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

(1)平成25年度第3回委員会を12月6日に開催する予定である。

(2) 第7回「大学病院産婦人科勤務医の待遇改善策の現況に関するアンケート調査」および第1回「医学部地域枠学生の動向」に関する実態調査にについて、一次集計がまとまったが、協力いただいた各大学産婦人科教授に、集計結果の確認依頼と追加調査への協力依頼を出したい。

[資料:医療改革1、2、3-1、3-2、3-3]

海野信也委員長「これを取りまとめたうえで、たとえば地域枠についてどのようなアプローチができるかを医療改革委員会として検討していきたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3)第2回産婦人科医の就労状況についての調査について [資料:医療改革4-1、4-2]

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

海野信也委員長「来年1月26日に拡大医療改革委員会を開催する予定である。」

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (片渕秀隆委員長欠席につき、北澤正文主務幹事)

(1) 会議開催

11月15日、第2回男女共同参画・女性の健康週間委員会を開催の予定である。

(2) 地方学会担当市民公開講座について [資料:男女共同1]

8) 若手育成委員会 (齋藤滋委員長)

(1) 会議開催

開催日	会議名	場所
10月11日	第7回産婦人科サマースクール若手委員反省会	学会事務局会議室
12月6日	第3回教育委員会・若手育成合同委員会	フクラシア東京ステーション

(2) 産婦人科サマースクールに関連して

- ①第7回産婦人科サマースクールについては、若手委員反省会も踏まえ12月7日の理事会で最終報告を行う予定である。
- ②第8回産婦人科サマースクールについては、第7回を含め今までの反省点を見直し、より魅力のある会にしたいと考えている。
- ③第8回産婦人科サマースクール若手委員について
第7回の若手委員の話合いで、京都大学・川崎 薫先生、大阪大学・中川 慧先生、国立成育医療研究センター・中筋貴史先生にお願いすることになった。
第7回産婦人科サマースクールに初めて若手委員として協力いただいた先生方からはほぼ全員次回も参加の意向をいただいているが、そろそろ、自発的に参加者を募りたく一般公募も考慮したい。[資料:若手育成1]

(3) 産婦人科スプリング・フォーラム [資料:若手育成2]

- ①齋藤 滋委員長、金井 誠先生、梶山広明先生で相談のうえ第4回産婦人科スプリング・フォーラムについては資料のような内容を企画している。
- ②各大学ならびに地方学会に対して、第4回産婦人科スプリング・フォーラム募集ポスターならびに推薦依頼を郵送した(地方学会推薦締切:11月末日、公募締切:12月20日)。各医局におかれては繁忙な時期ではあるが、当該年齢の先生方に是非参加を促していただき、また参加される先生に対しての特段の配慮もお願いしたい。

9) 臨床研究審査委員会 (水沼英樹委員長) 特になし

10) 医療安全推進委員会 (竹田省委員長) 特になし

11) 公益事業推進委員会 (竹下俊行委員長) 特になし

12) 情報管理委員会 (久保田俊郎委員長)

(1) 池ノ上克会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請があった「産科医療補償制度の補償対象事例である脳性麻痺事例に関して、疫学的分析を行うべく、正常分娩等との比較を行うため」について審査を行い、10月11日に審査結果(承認)を通知した。[資料:情報管理1]

(2) 日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請があった「周産期登録データベースおよび新生児臨床研究ネットワークデータベース(NRN)、出生票、死亡票のレコード・リンケージによる、周産期ビッグデータマネージメント手法の開発、および周産期疫学領域の若手研究者育成」につい

て審査を行い、10月11日に審査結果（不承認）を通知した。〔資料：情報管理2〕
齋藤滋特任理事「周産期登録データベースと新生児臨床研究ネットワークデータベースとのリンクは重要だが、個人の研究として出ているため不承認となったが、周産期委員会で検討した結果、再申請していただくことになった。」

久保田俊郎委員長「再申請されたところで、また審議したい。」

(3) 日本産科婦人科学会 ART 登録データベース使用申請があった「静岡市に対して、助成金の拡充の嘆願書作成のため」について審査を行い、10月11日に審査結果（不承認）を通知した。
〔資料：情報管理3〕

13) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会（井坂恵一委員長）

(1) 会議開催

12月6日に第5回婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会を開催の予定である。

III. その他

以上